

第16回公金支出及び公文書改ざん等調査特別委員会会議録

- 1 開会日時 令和2年9月16日（水）午前10時0分
- 2 閉会日時 令和2年9月16日（水）午前10時22分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
1 番 永徳 省二君 4 番 佐々木雄司君 6 番 保田 守君
9 番 原田 素代君 10 番 行本 恭庸君 13 番 福木 京子君
15 番 岡崎 達義君 16 番 下山 哲司君
- 5 欠席委員
な し
- 6 事務局職員出席者
議会事務局長 元宗 昭二君 副 参 事 黒田 未来君
- 7 協議事項 1) 調査報告書について
2) その他
- 8 議事内容 別紙のとおり

午前10時0分 開会

○委員長（下山哲司君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから第16回公金支出及び公文書改ざん等調査特別委員会を開会いたします。

それでは、これから協議事項に入ります。

1 番目、調査報告書について、公金支出及び公文書改ざん等調査特別委員会調査報告書（案）をお手元に配付しております。既にお目通しいただいてと思います。

調査報告書（案）について、委員の皆さんから御意見がございませうか。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 前回この打合せをさせていただいたときにお話があったんですが、保田委員が質疑をした内容になりますけども、松村さんに対しまして北川議員がお金の受け取りや、あるいは組合の存在に対して偽証をお願いすると、お断りをしましたがという話がありました。その内容を書き記すというようなお話があったんですが、実はあのときに書き記すというところまで結論が至ってなくて、うやむやの状態のままこの報告書ができ上がってる状況になってるんですけども、あれはもう書き記さないという、そういう認識というか、確認なんですけども、そういう方針でいかれるということなんですか。

○委員長（下山哲司君） お答えします。

その件につきましては、副委員長と相談をさせていただきました。松村さんが何も悪いことをしとるわけでもなし、その文書の中でそういうものが公表されると松村さんも問題があるのではないかと、個人的問題に関わってくるんじゃないかということで、議事録には残っておりますので、何かがあって使うときには使えるという判断でその部分は削除しております。御意見はいただきましたが、そういうように考えております。

以上です。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 私はそうは思っていないで、むしろ松村さんの名誉を守るためにも書いてさしあげなければいけないんじゃないかなと思うわけですよ。要するに北川議員がおやりになられてる個人的にお金を受け取っていることについて共犯になれというふうに言われたことに対し、それは困りますと、そんなことできませんということで毅然とお断りしたということですから、むしろその名誉を守るということで、そういうふうを持ちかけ話があったけども自分はそういうものにくみすることはできないと毅然に対応したんだということをお知らせしてあげるためにも書いてさしあげるべきではないかなあというふうには思っているんですが、皆さんの御意見をお尋ねしたいと思うんですけども。

○委員長（下山哲司君） あの時点でここから先は委員長、副委員長にお任せくださいという

お話をさせていただいたと思うんです。それで、委員長、副委員長で相談した中で、親族でもあるし、2人が、それをそういうことで文書で公表してどうかと、こういうことが、それだけ必要な部分かどうかということにおいて、議事録には残っておるわけですから、何か事あるときに必要なときには使用ができるけど、そこまで必要がないんじゃないかという判断には至っております。

○委員（原田素代君） 意見です。

○委員長（下山哲司君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 委員長、予定調和で終わりたいというお気持ちはよく分かるんですけど、一応これ案のたたきですから、最終的な案がここで出されて、最終的に幾らかの意見が微調整が出るのは当然のことだという思いで考えていただきたいというのがまず1つ。

それから、佐々木委員の指摘っていうのは、私ももっとあらかじめきちんと要望しとけばよかったなあという後悔がございます。はっきり言えば、杉本さんのケースもそうですけれども、彼もある意味そういういろんなおそれを、彼も大分バッシングされました。だけれども、彼はきちんと勇気を持って事実を明らかにした。そういう意味でいうと、今回の松村さんも、はっきり言って、その通帳の口座の名義人にもなってらっしゃったり、いろいろと今委員長おっしゃったように、親族の関係もあったりしていろいろ彼自身にとって不利な状況が予想される中で彼は毅然とはっきり正直にお答えになったわけですから、そこはそういうふうな書き方を含めて取り上げてあげるっていうのは私たちとしては当然のことだろうと思っています。

○委員長（下山哲司君） 言われることはよく理解できますが、その先を考えたときに人権的問題もあるし、それからほかの運転手さんが皆来てくださった人から、広報に僕の名前が載った、私の名前が載ったということで電話はいただいております。ですが、百条委員会として調査したことで、お許しくださいという御返答はさせてもろうとんで、その辺も加味すれば、やはり皆さん物すごく気にされとるわけですが、自分の名前が出るという、別に誰も悪いことをしてない気持ちは持ってもらえるところで、そうやってやればぐるでやったんじゃないかと思われる方もおられるんで、だからその辺はある程度の配慮をさせていただくと。委員長と副委員長にお任せくださいということで検討はしておりますから、その辺で御理解をいただきたいというふうに考えております。

よろしいですか。

御理解いただくしか……。

保田委員。

○委員（保田 守君） あのときも載せてほしいと思うたから言ったんですけど、あのとき自分としたら委員長、副委員長に任せることに納得したんで、お任せします、私は。

○委員（行本恭庸君） 右に同じ。

○委員（永徳省二君） はい。

○委員長（下山哲司君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 佐々木委員の言われることも原田委員が言われることも本当に納得できますし、口裏合わせもしてきてるだろうと、あるいは偽証も可能性十分あるだろうと思うんですが、前回委員長、副委員長に内容も含めてお任せしたので、このままでいいと思います。

○委員（福木京子君） はい。

○委員長（下山哲司君） 福木委員。

○委員（福木京子君） 私ももう任せたからいいんですが、松村さんの通帳のあの辺やこうちよっとまだ精査してない段階の中もあるしで、一応議論した中で委員長、副委員長にお任せしたのでいいです。

○委員長（下山哲司君） 通帳の件は、農協に派遣で行っておりますんで、見ていただいたとおりでございます。それもそこで話したようなことが全部載せれるわけでもございませんので、その辺も御理解をいただきたいというふうに思います。

それでは、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（下山哲司君） それでは、これより……。

○議会事務局副参事（黒田未来君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 黒田君。

○議会事務局副参事（黒田未来君） すいません、訂正をお願いしたいと思うんですが、お手元の資料の案の18ページをご覧ください。

18ページの上から5行目の「それに伴う公文書改ざんを」というのがありますが、その「を」は余分ですので、「を」を消していただいて、「それに伴う公文書改ざんなど正常な」ということで「を」を消していただきますようお願いいたします。

以上です。

○委員長（下山哲司君） 今黒田君のほうから申出がありました。一文字余分が入るとということでお消しいたいて、案ということにさせていただきます。よろしいですか。

それでは、これより委員会調査報告（案）について採決をいたします。

お諮りいたします。

本案は原案のとおり決定とすることに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（下山哲司君） 異議なしと認めます。したがいまして、そのように決定いたしました。

続いて、2番目、その他に入ります。

まず、その他に入ったときに報告を1つさせていただきます。

岡崎副委員長と弁護士さんのところに、一応もう今日で終わりですからありがとうございます

したというお礼を言ってきておりますので、御報告しておきます。

その他で委員さんから何かありましたら御発言をお願いいたします。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 確認なのですが、予算を取っていただいている内容のことになるんですが、この報告書が今広報編集特別委員会のほうで広報のほうに全て書き記すのか、それとも別冊として挟み込むような形で議会としてお知らせをするのかというところについて、今検討しているような最中なのですが、その際に話として出されたのが、この百条委員会のほうで予算があるのでそちらのほうでもし取れるのならば冊子を作っていただいて、それを配布してはどうかというような形だったんですけども、予算的にはどうなんでしょうか。

○委員長（下山哲司君） 事務局のほうに。

事務局。

○議会事務局副参事（黒田未来君） 今年度の予算につきましては、お手元の資料の20ページ一番下にありますとおり、令和2年度は180万円以内ということでこの百条調査委員会の予算は取っております。それで、概算ですが、現在まで利用している額が、21ページでございますように、77万6,451円ということで、この先会議録などにはもうちょっと積み重なるのですが、これだけ使用しております。ですので、180万円以内であれば百条委員会として予算としては使えるという現状ではあります。

以上です。

○委員長（下山哲司君） 1つお尋ねしておきます。事務局のほうにお聞きしたいんですが、百条の調査費用と百条が広報紙に金を出すというのが私個人としては予算の使い方が違うんじゃないかというふうに思っております。広報のほうから誰だったかお聞きくださったから、これをじゃから抜粋して広報に載せるのか、このまま全部載せるのかというのは聞かれたので、それは広報に関しては広報の委員さんで御協議くださいと、百条のほうから御協力するというわけにはいかんと思いますという返事はさせていただいております。

○議会事務局副参事（黒田未来君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） はい、事務局、どうぞ。

○議会事務局副参事（黒田未来君） この広報の話なのですが、今の話だと広報委員会が出すのか、それとも百条委員会が別冊として出すのかっていうのもう全くスタンスが変わってくると思います。ですので、百条委員会の予算を使うのであれば百条委員会として別冊として出すということを決めれば百条委員会の予算を使用して出す方向にはなると思います。広報として出すのであれば、もう広報委員会が広報の別冊として出すか、百条委員会が出すのかというスタンスがそもそも変わってくると思います。

以上です。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 今まさに事務局のほうで御説明してくれたことを私今指摘したかったところなんですけども、そういうような広報なのか、百条委員会なのか、どっちがその印刷物を作るのかというところの課題がありますので、どのように今後検討していきますかということの投げかけです。

○委員長（下山哲司君） 事務局にちょっとお尋ねしますが、議場で費用の説明をさせてもらうと思うんですが、広報についてのあれは申し上げてないんで、多分事務上広報は百条の費用ではできんじゃないかというふうに私は思っておるんですが、その辺は副委員長からも。

○副委員長（岡崎達義君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） はい、どうぞ。

○副委員長（岡崎達義君） 最初に百条委員会やったときには、結論の冊子を全部印刷して全戸配布したんじゃないかなと思うんです。

○委員（原田素代君） そうです。

○副委員長（岡崎達義君） これ100万円ほど残ってますから、全戸配布するだけの金額が残ってればそういう形で印刷して議会広報と、それから市の広報、あれに挟み込んで各戸に配布してはどうかかなあと思うんですけど、どんなんでしょうね、そこ。

○委員（佐々木雄司君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 多分そこら辺はもう2つの委員会にまたがる話で議長マターだと思いますから、委員長と正副委員長と議長で協議をしていただいて、広報委員会のほうでこの部分は扱うのか、それとも百条委員会の予算があるのでそちらのほうで賄っていくのか、協議をしていただいたらいいんじゃないかなあというふうに思ってるんですけども。

○委員（原田素代君） 委員長。

○委員長（下山哲司君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 佐々木委員の今の発言だと予算があるからっていう議論にならないほうが私はいいと思う。最初に言ったように、どちらが責任を取るのかっていう意味でいうと、要するに百条っていうのは市民に対してきちっと報告する義務も含めてあるのですから、当然百条委員会としては最終草稿ができて、報告書をちゃんと作って、それを各戸に配布するっていうのが百条の本来の趣旨だと思います。だから、これだけの金額を前回そうでしたからしてと思うので、私としては百条委員会として報告書をどうやって扱うのかっていう議論をここでされて、その上できちんと作ったほうがいいよねっていう議論になったほうが私はいいと思っています。

○副委員長（岡崎達義君） そういう形で全戸配布したんですよ。

- 委員長（下山哲司君） これは広報。
- 副委員長（岡崎達義君） うん、だから広報に挟み込んだんですよ。
- 委員長（下山哲司君） 予算は。
- 副委員長（岡崎達義君） 独立してる。
全部、調査経費、調査……。
- 委員長（下山哲司君） 載っとるか、調査経費の。
- 副委員長（岡崎達義君） もう全部載ってる。
- 委員長（下山哲司君） 広報費用で載せとるか。
- 副委員長（岡崎達義君） じゃから、広報じゃないんだって。これを別冊にして全戸配布したんです。百条……。
- 委員長（下山哲司君） じゃあから……。
- 副委員長（岡崎達義君） 百条委員会として。
- 委員長（下山哲司君） その印刷、あれ入っとるか、予算に、見て。
- 委員（行本恭庸君） 委員長。
- 委員長（下山哲司君） 行本委員。
- 委員（行本恭庸君） 前回と同じようにすりゃええんで、もうどうこう言うことはない。前やったのと同じようにすりゃあええ。
- 委員長（下山哲司君） 問題は、先ほども私が申し上げたように、議場で質疑があったときにその調査報告書については予算の説明をしてなかったの、議長と相談しまして取り計らいをさせていただくということで、どんなでしょうか。
- 委員（佐々木雄司君） 委員長。
- 委員長（下山哲司君） 佐々木委員。
- 委員（佐々木雄司君） 1名名前が抜けておりましたので、広報委員会の委員長のほうも交えていただいて、というのがどっちがどうかっていう、こっちが決めてそうなるっていう話じゃないんで、広報委員長のほうにも御了解をいただかなければいけない内容だと思いますから、4名でお話をいただいて。
- 副委員長（岡崎達義君） ちょっとよろしいか。
- 委員長（下山哲司君） 副委員長。
- 副委員長（岡崎達義君） ただ、百条委員会として今この報告書を全部印刷してそれを各戸配布するんだったら広報の委員長は関係ないです。ですから、それはここで議決してしましようということになれば、予算残ってるわけですから、一番最初的时候は30万円ほどしか要らなかったから、今は幾ら高くても50万円ぐらいなもんだと思うんですよ。そしたら、半分ぐらいは残る、100万円ぐらい残ってるわけですから、半分使えば十分いけるんじゃないかなと思うんです。それを市の広報に挟み込んで皆さんの家庭に配布して、こういう結論になりましたっ

ということも一つの百条としての仕事じゃないかなとは思いますが。

○委員（佐々木雄司君） 仰せのとおりです。

○委員長（下山哲司君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 今岡崎副委員長が言われたように、百条委員会で自己完結すべきというふうに思います。

○委員（福木京子君） 前は何ページぐらいありましたか。

○副委員長（岡崎達義君） たくさんあったよ。

○委員長（下山哲司君） 結構……。

○委員（福木京子君） だから、今回はその倍ぐらいある可能性があるね。

○副委員長（岡崎達義君） 中間報告も。

○委員長（下山哲司君） 中間報告もやっとするが、前。

○委員（福木京子君） 中間報告もやっとするからね。

○副委員長（岡崎達義君） 写真入りで。

○委員（福木京子君） 多分倍のページになるのかな、そうでもないか。

○委員（原田素代君） いや、字数が違うからもっと少なくなります。

○委員長（下山哲司君） 16ページですよ。

○委員（原田素代君） これが大きいから。

○委員（福木京子君） 分かりました。また同じにすりゃええんでしょね。

○委員長（下山哲司君） じゃから、これは21ページありますから。

○委員（福木京子君） そうなんです。はい、分かりました。

○委員長（下山哲司君） これは、ちょっと事務局に1つお聞きしますが、そういうことになれば、ここへ項目を入れて、もし今日議決になればこの予算も修正もせにゃいけんと思うんです。

○議会事務局副参事（黒田未来君） はい。

○委員長（下山哲司君） 黒田君。

○議会事務局副参事（黒田未来君） 現段階で11月上旬時点の概算ということで、今日の段階で広報に幾らっていう実際の金額がここには入れれないと思います、今の時点で。ですので、その広報に対するこの金額はここにはちょっと入れ込むのは難しいかと思ってます。

○委員長（下山哲司君） もう1つ、ついでに聞いときます。

後からこの委員会で報告書を出せということになれば、この委員会で出すんですが、それについて議場で説明しとるのに広報については申し上げてなかったんで、その辺について問題はないでしょうか。

黒田君。

○議会事務局副参事（黒田未来君） 議決が必要なものはあくまで百条委員会として必要な経

費が幾らという上限を超えない額を百条委員会の中で使うという議決だけなので、その細目については議決事項ではありませんので、委員長が議場の中で、大体こういう金額のこういう内容で取ってますという説明はされましたが、じゃあそれ以外は絶対使ってはいけないかと言われるとそうではないとは思っています。

○委員長（下山哲司君） ありがとうございます。

それでは、お諮りいたします。

先ほど議長に相談という話でしたが、この予算内であればいいだろうと、こういう御判断をいただいたんで、お諮りして、どんなふうにさせていただいたらいいか、御意見をください。

いやいや、皆さんの、一応1人ずつ聞いていったほうがいいと思うので。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） 百条委員会で自己完結して出すべきというふうに思います。

○委員長（下山哲司君） 福木委員。

○委員（福木京子君） そうしてください。

○委員長（下山哲司君） 佐々木委員。

○委員（佐々木雄司君） 議長、副議長、正副委員長で、あと広報のほうとどういう対応をしていくのかというところの協議の上、決定していただきたいと思います。

○委員長（下山哲司君） 原田委員。

○委員（原田素代君） 私は、この予算の明細まで確認しなかったのが悪いなと思うんですけど、もちろん前回もそうでしたし、きちんとした報告書というものを全戸に配るのは前提ですから、それで百条が終わる、完結という言い方もあります、ですから当然百条としてそのまま責任を持って提出すべきだと思います。

○委員長（下山哲司君） 行本委員。

○委員（行本恭庸君） 百条委員会でやってください。

○委員長（下山哲司君） 保田委員。

○委員（保田 守君） 同意します。

○委員長（下山哲司君） 副委員長。

○副委員長（岡崎達義君） 当然出すべきだと思います。

○委員長（下山哲司君） それでは、ただいま皆さんの御意見は百条委員会として報告書を出すべきという御意見が全員でございますので、議長のほうに相談申し上げてそういうふうに取り計らうということによろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（下山哲司君） それでは、そのように取り計らいさせていただきます。

その他ございませんか。

永徳委員。

○委員（永徳省二君） この百条委員会の報告書を受けて、北川議員に対する議員辞職勧告等の話はどうなるのでしょうか。

○委員長（下山哲司君） その件については、弁護士の先生とも相談させてもろうて勉強してきました。この百条委員会を離れて後から打合せ会をやらせていただきますので、この反省会を兼ねてこの終了後時間を取っていただきたいと思いますので、その時点で相談をさせていただきます。

○委員（原田素代君） 今日の終了後か。

○委員長（下山哲司君） そうです、今日の終了後です。よろしいですか。

○委員（原田素代君） 分かりました。

○委員長（下山哲司君） それでは、他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（下山哲司君） 以上をもちまして第16回公金支出及び公文書改ざん等調査特別委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前10時22分 閉会